

児童発達支援センター 堺市立つぼみ園 支援プログラム

(基本情報)

事業所名	堺市立つぼみ園	作成年月日	令和7年4月1日改訂
開所時間	午前9時00分から午後5時30分	送迎実施の有無	有
法人理念	発達のおくれや障害のある人たちが、地域社会で安心して、いきいきと学び、生活できるように乳幼児期から高齢期までライフステージに沿った専門的サービスを提供する。		
支援方針	運動面や言語、社会性などの発達に遅れやつまずきのある子ども（0～5歳児）について、保育・療育、リハビリテーションを行い、子どもたちの豊かな発達と自立をめざします。子どもの年齢や発達状況に応じた多様なクラス編成を行う。 親子での遊びを通し信頼関係や自我を育む親子クラスや、認定こども園・幼稚園・保育所（園）などに在籍する子どもに対し、少人数グループでの親子療育（並行通園）も行う。 各種相談や研修など保護者への支援を行う。		

(支援内容)

		2～3歳児	4～5歳児
健康生活	食事	食事の調理法、形態は栄養士、言語聴覚士、看護師と連携し、姿勢や食器については、理学療法士、作業療法士と連携し、保護者とも相談し子どもに応じて提供していく。 保護者以外の大人ともリラックスして食べる。給食に慣れるよう、落ち着いた環境の中で安心して食べる。	友だちの顔が見えやすい座席配置などを配慮し、子どもが楽しく食事に向かえるようにする。自分で食べる意欲を高め、食具を使って食べる経験をしていく。 自分でスプーンを持つことが難しい子どもも、視線や身振りなどで自分の食べたいものを介助の大人に伝えて、より主体的に食事に向かえるようにする。たべものへの興味関心を広げる。配膳、片付けなどにも取り組む。
	排泄	こまめにオムツ交換をする中で、排泄による、快、不快を意識していく。個々に応じて便器や姿勢などを工夫する。少しずつトイレの空間、便座に座ることに慣れる。排泄後の手洗いを大人と一緒にする。	定時の誘いかけや声かけでトイレでの排泄の経験を積み重ね、個々に応じて自立に向けて取り組む。園生活の中で布パンツをはく経験をする。排泄後の手洗いを意識していく。
	着脱	大人と一緒に個々に合わせて取り組む。自分では難しい子どもも、大人が声をかけながら、自分で力を抜いたり、頭や足をあげる等、できるところは着脱に参加していくように促していく。	排泄時や身体測定に着替えを丁寧に取り組む。大人が見守り、袖から腕を抜く、パンツをあげる等、自分でできるところは取り組む。ロッカーから服を出す、汚れ物を片付けるなど、自分の持ち物に意識が向くようにする。
	生活リズム	園の生活を中心に、朝起きて登園、活動し、帰園後、家庭でゆっくり過ごして、夕食後、夜の睡眠にいたるという安定した生活リズムを作っていく。個々に合わせて朝の支度に取り組む。	午後の過ごし方を工夫し、子どもの体力や姿に応じて、生活リズムを作る。クラスで朝の準備の内容を確認し、習慣づけていく。できることは自分でする意識を高める。
あそび	運動感覚	【くまクラス】ふれあい遊び、揺さぶり遊び（マットブランコ、大型ブランコ、トランポリン）で揺れる心地よさを大人と一緒に感じる。体操やリズムあそびで身体を動かす。大型遊具では、大人と一緒に滑り台やブランコを経験する。プールあそびでは、水に慣れる。 【はなクラス】歩く・走る動きやよつぱい姿勢（マット登り、トンネルくぐり、はしご登り）、足元を意識する活動（飛び石渡り・平均台(低い・広い)・階段や梯子(小)登り)をたっぶり経験する。高さの低い組み遊具に取り組み、様々な身体の使い方を経験する。バンバンカー等安定した乗り物で遊ぶ。体操やリズムあそびで曲に合わせて身体を動かす。ふれあい遊びや揺れ遊具で大人と一緒に心地よさを感じる。大人と一緒にボールで遊ぶ。プールでは水に慣れ、子どもの姿に応じて水の量・深さに配慮する。	トランポリン・エアポリンの揺れに合わせてバランスを保つ揺さぶり遊びを楽しむ。リズムあそびや体操では、楽しい曲の中で動きや姿勢を模倣したり躍動感を感じる。個々に合わせた遊具を設定し、遊具に合わせた身体の使い方を知る。園庭での散策や、近隣の公園等への散歩（バギー、ウォーカー）。プールでは水中でリラックスする。水の抵抗を乗り越えて遊ぶ楽しさを経験する。 運動あそびの経験を積み重ね、遊具を使ってブランコやすべり台、梯子を登る、平均台、はしごのぼり、太鼓橋で姿勢変換し登って降りる等いろいろな動きや姿勢をする。三輪車・自転車・キックボードなどいろいろなのりものに乗る。ボール等を入れる・運ぶ・投げる・的に当てる。体操、音楽に合わせて模倣遊びを充実し身体を動かす。〇〇しながら△△する等、身体（手と足）の分離ができる。簡単なルールのあるあそびや円周かけっこ・リレーを経験する。プールで大胆に遊ぶ(もぐる、泳ぐ)。手つなぎ散歩や園外・公園で遊ぶ経験をする。
	手指活動・認知行動	感触あそびで、寒天、小麦粉粘土、片栗粉、絵の具・砂・泥等さまざまな素材の感触を知り、感じ分ける。楽しい雰囲気の中で、素材への関心を高める。制作では、シンプルな手順（握る・破る・貼る・マーカーでお絵かき等）で行事や季節に応じた作品作りを通して季節を感じる。手遊びは、歌の心地よさに合わせて手や身体を動かす。玩具は、結果がわかりやすいもの（音が鳴る、光る等）。ぽとん落とし・クーゲルバーン（入れる、つまむ）等の定位活動に取り組む。 【視覚支援】実物や写真を提示し、次の活動の予告をする。自分のロッカーや持ち物など自分の場所や物を分かりやすくするために個人のマークをはる。スケジュールを提示し、生活の節目で確認する。	感触あそびでは、素材を自分で変化させる手応えを積み重ねる。道具を使ってすくう、混ぜる、型で抜く等の活動を取り入れる。制作は、切って貼る等2つの過程のある活動や紐通し・ステンシル等両手を使う活動を経験する。作ったものを使ってお店屋さんごっこなどで遊ぶ。子どもに過程をわかりやすく示し、一人一人がイメージを広げて遊ぶ。好きな玩具や絵本をじっくりと楽しむ。 【視覚支援】スケジュールやカレンダーを提示し、保育内容への期待をふくらませたり、行事等いつもと違う時は、子どもがわかりやすいように見通しを作り、安心して向かえるようにする。複数の工程があるときや初めて取り組む物は、手順が分かりやすいように手順表を使う。要求などを大人に伝える意思表示手段として写真・カードなどを使う。
	言語コミュニケーション・人間関係・社会性	集団生活に慣れ、保護者以外の大人と関わり信頼関係を築いていく。大人と好きな遊びをみつけていく。安心できる環境の中で、子どもが周りに気持ちを持ちを向けていけるようなあそびや環境の工夫をし、大人や友だちへの関心・期待をふくらませていく。「楽しい」「嫌だ」等さまざまな感情を表現し、大人と共感する。様々な行事を経験する。	集団あそびの中で、大人や友だちとかわかり、あそびのイメージや期待・意欲をふくらませる。“楽しい・もう一回”と繰り返し遊ぶ。担任との信頼関係を深め、大人を支えに安心して活動に向かい、“できた”喜びを自信につなげていく。運動会等の行事を通して、子どもが培ってきた力を発揮する。生活年齢に応じた役割（お手伝い、お当番）を受け持つ。
家族支援 移行支援 地域支援 その他	（親子保育のねらい）集団保育の中で、子どもは保護者とともに安心して楽しく遊ぶ。新しい活動では、保護者を心理的支えにしつつ、少しずつ経験し、楽しめるようになる。保護者は、園の様々な取り組みに子どもとともに参加する中で、わが子の姿を受け止めながら、安心して育児にとりくめるようになる。		（親子保育のねらい）子どもは、先生や友だちと一緒に楽しく遊ぶ。保護者以外の大人の関わりも受け止め、自分の思いをだせるようになる。
	・保護者参加行事（夏のつどい、運動会、日曜参観、冬のお楽しみ会など）を通じ、保護者・家族と連携を深める。 ・保護者学習会や懇談・交流会を実施し、家庭（地域）での生活や子どもへの関わりについての相談援助を行う。また、進路先などを考えられるように情報提供と相談援助を行う。 ・地域のこども園等との交流保育やボランティアの受け入れ等を通じ、地域に開かれた園運営を行う。		
職員の質の向上に資する取組		障害児支援に携わる職員として必要な専門知識や技術だけでなく、人権研修や権利擁護等の法令遵守も含めた研修を計画的に実施する。 医療や保育、リハビリテーションなど部門別の各種研修会や学会に職員を派遣し、その受講報告書をもとに全職員への伝達を行う。 テーマに沿った外部講師に研修を依頼するとともに、多職種集団であることを活かし、職員自らが講師となって職場内研修を行う。 事業団内ケース検討会では大学教員等のスーパーバイズを受ける。	
主な行事等		4月）入園のつどい、家庭訪問、6月）日曜参観、7月）5歳児わくわく保育、10月）運動会、12月）日曜参観、おたのしみ会、3月）卒園・修了式	